

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-55C	22-058	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Association Between Alcohol Consumption and Risk of Pancreatic Cancer: The Japan Public Health Center-Based Prospective Study 飲酒と膵がんリスクとの関連：多目的コホート研究		
執筆者		
Okita Y, Sobue T, Zha L, Kitamura T, Iwasaki M, Inoue M, Yamaji T, Tsugane S, Sawada N.		
掲載誌		
Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 2022 Nov 2;31(11):2011-2019. doi: 10.1158/1055-9965.EPI-22-0216.		
キーワード		PMID
膵がんリスク、飲酒、多目的コホート研究		36066876
要 旨		
<p>目的：膵がんは日本におけるがん関連死因の第4位であり、特に社会経済的地位の高い国々で増加している。これまで飲酒と膵がんリスクとの関連についていくつかの研究がなされているが、結果は一貫していない。本研究では、飲酒量のカテゴリーを細かく分け、アルコール分解酵素（ALDH1, 2）と関連がある顔面紅潮反応の有無に関する情報も加えて、膵がんリスクとの関連を解析した。</p> <p>方法：多目的コホート研究（JPHC 研究）は2つのコホートから構成され、11の保健所管内の日本人地域住民を登録している。コホート I（40～59歳）は1990-1994年、コホート II（40～69歳）は1993-1995年のベースライン調査の質問票を通じて飲酒習慣を収集し、その後の発症状況を2013年12月31日まで追跡した。飲酒量は1週間のエタノールグラム単位数で計算し、平均飲酒頻度と飲酒量に基づいて参加者を6群に分けた。顔面紅潮反応は「陽性」、「陰性」、「不明」の3つのカテゴリーに分けた。多変量調整 Cox 比例ハザード回帰モデルを用いてハザード比（HR）と95%信頼区間（CI）を算出した。</p> <p>結果：合計95,812人（男性45,577人、女性50,235人）が解析に組み入れられ、1,969,101人年の追跡調査が行われた。追跡期間中に598人（男性315人、女性283人）が新たに膵がんと診断された。ベースライン時の飲酒量と膵がんリスクとの関連は、男女ともに有意な関連は認めなかった。顔面紅潮反応や喫煙の有無で層別化した男性における解析でも、有意な関連は認めなかった。ベースライン調査から5年間の追跡調査まで飲酒習慣が変わらなかった男性に限定すると、飲酒量が1～299g/週の常習飲酒者では、非飲酒者と比較して飲酒量と膵がんリスクに有意な関連が観察された（多変量調整 HR1.73; 95%CI 1.15-2.60）。</p> <p>結論：飲酒と膵がんリスクとの有意な関連は、5年間飲酒習慣の変わらない男性に限定した場合にのみ観察され、特に喫煙経験のない人に強かった。</p>		